教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	4	１年

１．学習の到達目標等

到達目標	様々な文章に触れ、表現の世界への理解を深める。 口語文法を正確に理解し、古典文法にも活かせるようにする。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける。
使用教科書	『国語 1』　（光村出版）　『新しい書写一年用』（東京書籍）
使用副教材	『実力練成テキスト 国語１年』（文理）　『常用漢字クリア』（尚文出版） 『新国語便覧』（第一学習社）　『論理エンジンＯＳ１』（水王舎） 『国文法ワークブック』（東京書籍）
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業に対する姿勢などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・常用漢字の習得 文法　・文節相互の関係、文の成分を学習する。 単なる知識ではなく、文章を読む上で、学んだ文法知識を活用することが出来るよう取り組む。 口語文法が文語文法の基礎となるということをしっかりと意識出来るようになる。 詩歌　・詩や和歌の特徴をとらえ、言葉の感覚を豊かにする。 文学的文章　・表現に注意し、情景や心情をとらえる。 ・作品の展開をとらえ、状況や人間関係を理解する。 説明的文章　・文相の構成や要旨をとらえ、目的や必要に応じて要約する。 ・事実と意見を区別し、筆者のものの見方や考え方を理解する。 古文　・言葉や仮名遣いなどの違いをとらえ、比較的馴染みのある文章を通じて、古典の文章に親しむ。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	国語	詩	「野原はうたう」等		■			1学期中間考査					1学期期末考査							2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		物語	「花曇りの向こう」等			■	■																													
		説明文	「ちょっと立ち止まって」等				■		■																											
		古文	いろは歌							■																										
		詩	詩の世界　等								■	■																								
		読書活動・物語	「光る地平線」等									■		■																						
		随筆	「空を見上げて」等														■	■																		
		物語	「星の光が降るころに」等															■	■	■																
		記録・説明文	「シカの落ち葉ひろい」等																	■		■														
		古文	竹取物語																	■			■													
		説明文・体験文	「桜守三代」等																				■	■												
		説明文	「まぼりしの魚は生きていた」等																						■		■	■								
		物語	「少年の日の思い出」																											■	■	■				
		言語知識	漢字・文法等		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■		■	
		書道	書写																								■								■	

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①（数式）	3	1年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，計算力（数の四則計算，文字式の計算，1次方程式の解法）の育成に力を入れるとともに，数量関係を式で表す力をつける。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・小学校の算数との円滑な接続を図ること。 ・授業の復習を中心とした自立した家庭学習を定着させるための「適切な課題と点検」を計画的・意図的に行うこと。 ・負の数の概念，文字式の理解など，具体から抽象への移行は大人が考える以上にハードルが高いことを念頭に置き，表面的な指導に終わらせず，本質的な理解を目指すこと。 ・生徒の主体的な学習を促すため，AL 型授業の活用など生徒集団の資質に応じた授業展開を工夫すること。
教科書	中学校数学1（数研出版），中学校数学2（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ代数編，体系数学問題集Ⅰ代数編
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1．正の数と負の数 数を負の数まで拡張し，数の概念についての理解を深める。 2．文字と式 文字を用いることの必要性と意味を理解するとともに，数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理できるようにする。 3．1次方程式 一元1次方程式の解き方を理解し，方程式を用いて問題を解決できるようにする。 4．比例と反比例 具体的な事象を調べることを通して，比例，反比例についての理解を深めるとともに，関数関係を見いだし表現し考察できるようにする。 [発展学習] ・文字式の計算，利用について，さらに深める。 ・比例のグラフを応用して，1 次関数のグラフについて考える。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学①	正の数と負の数					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	文字と式																																				
	1次方程式																																				
	比例と反比例																																				
	1次関数																																				
	式の計算(中2)																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学②（図形）	2	1年

1．学習の到達目標等

到達目標	下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に， 「基本的な作図，空間図形の見取り図・展開図・投影図の描き方，基本的な図形の計量」についての技能を習熟させるとともに，論理的に考察し表現する能力を培う。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・図形について，観察，操作や実験などの活動を通して，直感的な理解を深めるとともに，「なぜ？」を大切にし，論理的に考察し表現する力の育成を目指すこと。
教科書	中学校数学1（数研出版），中学校数学 2（数研出版）
副教材	体系数学Ⅰ幾何編，体系数学問題集Ⅰ幾何編
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	1．平面図形 基本的な作図の方法を理解し，それを具体的な場面で活用できるようにする。また，図形の移動について理解し，二つの図形の関係について調べる。 2．空間図形 直線や平面の位置関係，空間図形の構成と平面上の表現（投影図），図形の計量などについて学ぶ。 3．資料の整理 収集した資料について，その代表値や散らばりに着目して，その資料の傾向を読み取ることができるようにする。 ［発展学習］ ・平面図形や空間図形について，観察や実験を通して得られた性質を，より論理的に考察する。 ・データ分析の方法をさらに深める。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学②	平面図形					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	空間図形																																				
	図形の性質と合同																																				
	資料の整理とその活用																																				

教科	科目	授業時数	対象学年
英語	英語	6	１年生

１．学習の到達目標等

到達目標	グローバル社会・情報化時代を主体的に生きていくため、コミュニケーションツールとしての英語を習得し、使える力を育成することを目指す。 英語の基礎力を身につけることはもちろんのこと、英語で自分の想いを相手に伝えることができるような表現力をも身につけることを目標とする。
目標を達成するための留意点	英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので、課題も含め毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 授業の復習を確実に行う習慣を身につけ、習ったことは逃さず理解するよう心がける。特に習った単語や熟語は確実に習得するよう繰り返し音読や意味の確認を行うよう指導する。
使用教科書	TOTAL ENGLISH 1・2(学校図書)
使用副教材	＊5　STAGE 1-2（数研出版） ＊チャンクで覚える英単語　BASIC　（三省堂） ＊発音教材（ベルリッツ）
評価基準	評価の観点は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」,「表現の能力」,「理解の能力」,「言語や文化についての知識・理解」の４項目を中心とし、「読む，書く，聞く，話す」の４技能も参考にする。 定期考査を基本に、平素の学習態度・提出物、学期毎のプレゼン、定期考査、課題点検試験、リスニング試験、小テストなどを上記の観点に基づいて総合的に評価を行う。
学習内容	名詞・形容詞・副詞・動詞・文型・時制といった基礎的な文法事項を確実に理解する。 英語を使って積極的にコミュニケーションを図る。　また、外部講師を招く授業においてはフォニクスの活用等で発音トレーニングを行う。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	英語	Pre-lesson	単語演習		■			1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		Chapter 1 自己紹介のスピーチ	好きなスポーツなどの			■	■																																
			自分の事を紹介する						■	■	■																												
			「いくつ～ですか？」									■		■																									
		Chapter 2 家族や友達、あこがれの人などを紹介する	「これは何ですか」																■	■																			
			家族や友達など																		■	■																	
			「どういう人ですか」																					■															
			「～はどこですか」																						■														
		Chapter 3 写真について説明する	「いつ～しますか」																							■													
			「～ができます」																								■												
			「しているところです」																												■	■							
			「どちらの～ですか」																														■						
			「誰のものですか」																															■					
		Chapter 4 手紙を書く	「～しました」																															■				■	

教科	科目	授業時数	対象学年
理科	理科１分野	２	１年

１．学習の到達目標等

到達目標	観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，基本事項をよく理解し，事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく，獲得した知識を活用し，考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス１」（啓林館） 「未来へひろがるサイエンス２」（啓林館）
使用副教材	「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．１」（育伸社） 「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．２」（育伸社）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	・身のまわりの物質についての観察・実験を通して，化学の基礎を身に付けさせるとともに，身のまわりの物質の性質と反応を理解させ，身のまわりの物質についての認識を深める。 ・エネルギーを音・光・力などの観察を通して，さまざまな事物・現象をエネルギーを通して理解させ，エネルギーについての認識を深める。 ・物質の成り立ちや様々な化学変化を、観察を通して理解させ，化学変化と分子・原子についての認識を深めるとともに，物質の世界について理解させる。

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
身のまわりの物質	いろいろな物質とその性質	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	いろいろな気体とその性質	■	■															
	水溶液の性質		■		■													
	物質の状態とその変化				■		■		■									
光・音・力による現象	光による現象								■	■								
	音による現象									■		■						
	力による現象											■						
化学変化と原子・分子	物質の成り立ち													■	■			
	さまざまな化学変化														■	■		
	化学変化と物質の質量の規則性															■		■

教科	科目	授業時数	対象学年
理科	理科２分野	２	１年

１．学習の到達目標等

到達目標	観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	知識獲得を最終目的とするのではなく，獲得した知識を活用し，考察することに意識を向けさせるように指導する。
使用教科書	「未来へひろがるサイエンス１」（啓林館） 「未来へひろがるサイエンス２」（啓林館）
使用副教材	「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．１」（育伸社） 「中学 Sirius２１　Ｖｏｌ．２」（育伸社）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，マイノート，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	・身近な植物についての観察・実験を通して，生物の調べ方の基礎を身に付けさせるとともに，植物のつくりとはたらきを理解させ，植物の生活と種類についての認識を深める。 ・大地の活動の様子や身近な岩石・地層・地形などの観察を通して，地表にみられるさまざまな事物・現象を大地に変化と関連付けて理解させ，大地の変化についての認識を深める。 ・生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また，動物などについての観察，実験を通して，動物の体のつくりと働きを理解させ，動物の生活と種類についての認識を深めるとともに，生物の変遷について理解させる。

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
植物のくらしとなかま	花のつくりとはたらき	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	根や茎のつくりとはたらき		■															
	葉のつくりとはたらき		■		■													
	植物のなかま分け				■		■											
活きている地球	大地が火をふく								■	■								
	大地がゆれる									■		■						
	大地は語る											■						
動物のくらしやなかまと生物の変遷	生物の体をつくる細胞													■	■			
	生命を維持するはたらき														■	■		
	感覚と運動のしくみ															■		■

教科	科目	単位数	対象学年
社会	地理・歴史	3	1

1．学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って，社会に対する関心を高め，公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように，基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し，課題を解決する能力を一層培うため，各分野において，適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して，言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的，体験的な学習の充実を図る。その際，情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき，政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	中学生の地理　世界の姿と日本の国土　（帝国書院） 中学生の歴史　日本の歩みと世界の動き　（帝国書院）
使用副教材	・ビジュアル世界　世界　日本（とうほう）・基礎をきずく地理①　帝国書院版（浜島書店） ・学び考える歴史（浜島書店）・基礎をきずく歴史①　帝国書院版（浜島書店）
評価基準	社会事象への関心・意欲・態度／社会的な思考・判断・表現／資料活用の技能／社会的事象についての知識・理解　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して評価する。
学習内容	[地理]　第１章　世界の姿　　第２章　世界各地の人々の生活と環境 第３章　世界の諸地域 １節　アジア州　２節　ヨーロッパ州　３節　アフリカ州 ４節　北アメリカ州　５節　南アメリカ州　６節　オセアニア州 [歴史]　第１部　歴史のとらえ方と調べ方 第１章　歴史の流れと時代区分　第２章　歴史の調べ方　まとめ・発表の仕方 第２部　古代国家の成立と東アジア 第１章　人類の登場から文明の発生へ　第２章　東アジアの中の倭（日本） 第３章　中国にならった国家づくり　第４章　展開する天皇・貴族の政治 第３部　武家政権の成長と東アジア 第１章　武士の世の始まり　第２章　武家政権の内と外 第３章　人々の結びつきが強まる社会 第４部　武家政権の展開と世界の動き 第１章　大航海によって結びつく社会　第２章　戦乱から全国統一へ 第３章　武士による支配の完成

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	社会	地理 第1部	第1章，第2章		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査							2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			第2章			■	■																													
			第3章 1節						■	■																										
			第3章 2節								■	■																								
			第3章 3節											■			■																			
			第3章 4節														■	■																		
			第3章 5節															■	■																	
			第3章 6節																■	■																
		歴史 第1部 第2部 第3部 第4部	第1章，第2章																	■																
			第1章，第2章																		■	■	■													
			第3章																							■			■							
			第4章，第1章																											■						
			第1章，第2章																													■	■			
			第2章，第3章																														■			
			第1章，第2章																														■	■		
			第3章																																■	

教科	科目	授業時数	対象学年
保健体育	体育	3	１年

１．学習の到達目標等

到達目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康安全についての理解と運動の合理的な実践を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
目標を達成するための留意点	運動に関する領域は体つくり運動、器械運動、陸上競技、球技、武道及びダンスであり、知識に関する領域は体育理論で行う。
使用教科書	保健体育（大修館）
使用副教材	図解中学体育実技（廣済堂あかつき）
評価基準	１、関心・意欲・態度 ２、思考・判断 ３、運動技能 ４、知識・理解 上記４つの観点と実技テスト、定期考査、プリントの記述、授業に参加する姿勢などをもとにして総合的に判断する。
学習内容	男子 集団行動、体つくり運動、新体力テスト、陸上競技 、ダンス、水泳、バトミントン、ソフトボール、剣道、器械運動、バスケットボール、サッカー 女子 集団行動、体つくり運動、新体力テスト、陸上競技、ダンス、ソフトボール、バトミントン、剣道、器械運動、バスケットボール、サッカー 保健　心身の発達と心の健康 体育理論　運動やスポーツの効果と安全

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	体育	集団行動						1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		体つくり運動																																				
		新体力テスト																																				
		陸上																																				
		ダンス																																				
		武道	剣道																																			
		球技																																				
		器械運動	マット運動																																			
		保健	心身の発達と心の健康																																			
		体育理論	運動やスポーツの魅力と学び方																																			

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	技術分野	1	1年

1．学習の到達目標等

到達目標	● 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を修得することで、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労や家庭生活の尊さや意義についての理解を深める。 ● 進んで生活を工夫し想像しようとする態度を身に付け、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよくしようとする意識を持つ。 ● 仲間の発想や意見を取り入れ、物や技術の価値を自ら判断し、社会の変化に対応したり、主体的に身の回りの技術を活用したり、新たな技術を創造したりする力を身に付ける。
目標を達成するための留意点	● 実践的・体験的な学習活動を中心に、課題解決のための工夫する姿勢や技能を身に付けます。授業で得た知識や技能を、自分の生活に繋げられるように意識して授業に臨んでください。 ● 課題解決のための工夫の方法はたくさんあります。仲間と協働して学習し、アイデアを拡げていきましょう。
使用教科書	「新技術・家庭（技術分野）」（教育図書）
使用副教材	プリント教材　他
評価基準	● 毎回の授業に意欲的に参加し、それぞれが課題を持ち解決しようとすること。 ● 授業内容や実習内容について理解し、定期考査等で表現できること。 ● 製作する作品や、提出物を自分なりの工夫を加えて完成させ提出できること。
学習内容	1．ガイダンス ・ 技術分野で学ぶこと～人類と技術の進化～ ・ 生活や産業の中で利用されている技術 2．情報に関する技術（D） ・ ネットワークを支える技術 （情報のディジタル化、コンピュータの技術） ・ 情報社会と向き合う（情報モラル） ・ ディジタルものづくり （文書とレイアウト、表・グラフによる整理、画像の加工、プレゼンテーション） ・ コンピュータによる計測と制御 ・ 情報化って何だろう

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	技術	A 材料と加工に関する技術	人類と技術の進化		■			1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			生活や産業の中で利用されている技術		■																																		
		D 情報に関する技術	ネットワークを支える技術			■																																	
			情報社会と向き合う				■																																
			文書とレイアウト							■	■	■																						■	■		■		
			プレゼンテーション										■						■															■	■		■		
			画像の加工																	■	■	■												■	■		■		
			表・グラフによる整理																						■	■	■							■	■		■		
			コンピュータによる計測と制御																								■		■		■									
			情報化って何だろう																													■	■						

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	家庭分野	1	1年

1．学習の到達目標等

到達目標	衣生活・住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。
目標を達成するための留意点	● 「A家族・家庭と子どもの成長」においては，自分の成長を振り返ることによって，中学生の時期にある自分と家族や家庭生活とのかかわりについて考え，自分の成長や生活は，家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことを学ぶ ● 「C衣生活・住生活と自立」においては，衣服又は住まいに関心をもち，問題点があればそれを改善する工夫を考えたり，自分や家族の衣生活又は住生活をさらに豊かにするための工夫を考えたりするなど，課題をもって製作や調査などを行い，衣生活や住生活をよりよくしようとする意欲を持つ
使用教科書	「技術・家庭（家庭分野）」（開隆堂）
使用副教材	「技術・家庭総合ノート（家庭分野）」（明治図書）、プリント教材　他
評価基準	● 「A家族・家庭と子どもの成長」においては，家庭と家族の関係や幼児との生活について関心を持ち課題を見つけ，その解決を目指して工夫したり、家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域とのかかわりについて理解したりしていること。 ● 「C衣生活・住生活と自立」においては，衣服や住居と社会生活とのかかわりや計画的な活用の必要性を理解し、目的に応じ個性を生かす生活の工夫、適切な選択ができること。衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れや布製品の製作ができること。
学習内容	A 家族・家庭と子どもの成長 1．わたしの成長と家族 2．わたしたちと家族・家庭と地域 3．幼児の生活と遊び 4．幼児とのふれ合い 5．これからのわたしと家族 C 衣生活・住生活と自立 1．自分らしく着る・快適に着る （わたしたちと衣生活） 2．快適に住まう 3．生活を豊かにするものをつくる 4．世界の衣服と住まい ☆布を用いた物の製作

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	家庭	A 家族・家庭と子どもの成長	わたしたちの成長と家族・地域		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
			わたしたちと家族・家庭と地域						■	■																													
			幼児の生活と遊び								■	■																											
			幼児とのふれ合い											■					■																				
			これからのわたしと家族																	■	■	■																	
		C 衣生活・住生活と自立	日常着の活用																						■														
			日常着の手入れ																							■													
			住まいのはたらき																								■												
			健康で安全な住まい																											■									
			住まいと地域																										■										
			布を用いた物の製作																												■	■	■	■	■		■		

教科	科目	授業時数	対象学年
美術	美術	1.5	１年

１．学習の到達目標等

到達目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の造形活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
目標を達成するための留意点	＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんとやる。（忘れ物をしない） ・表現材料や用具・作品を大切にし、丁寧に扱う。　・自分の作品を大切にし、ねばり強く、集中して制作に取り組む。 ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、強い追求心をもち、 最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。
使用教科書	美術１（開隆堂）
使用副教材	レタリング字典（秀学社）　他にプリント教材
評価基準	① 美術への関心・意欲・態度 ：美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。 ② 発想や構想の能力 ：感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。→ 作品・定期テストなどで評価します。 ③ 創造的な技能 ：感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身につけ、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。 → 作品・定期テストなどで評価します。 ④ 鑑賞の能力 ：感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。→ 授業プリント・レポート・定期テストなどで評価します。
学習内容	１　楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 ２　対象を深く観察する力、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 ３　自然や美術作品などについての基礎的理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てる。

２．指導計画

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	美術	美術との出会い…これまでの美術的な経験を振り返り、中学校での美術の課題をみつける。		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		スケッチの楽しみ（素描基礎）…自分なりの見方や感じ方を大切にして形や色彩の特徴をとらえスケッチやクロッキーをする。						■																														
		水彩画技法…ポスターカラーを使い水彩画技法の基礎を知り、自由に表現するための基礎的技能を身に付ける。								■																												
		感じたままに…感じたことを表すのにふさわしい材料を選び、自分にあった方法で表現する。									■																											
		スケッチ…夏季休業を利用しスケッチを行う											■						■																			
		レタリング基礎…文字のデザインの基礎として、レタリングの基礎的技能を身に付ける。																		■																		
		色の広がり、魅力…色の性質や分類について基礎的な知識を学習し、配色などの応用に使えるようにする。																					■															
		遊び心の造形（文字のパロディ）…伝える内容を形や色を工夫した、ユニークな文字のデザインを考える。																				■			■	■												
		作品との出会い…授業作品の鑑賞を行い、それぞれの独自の魅力を発見し、味わう。																								■	■											
		彫刻の楽しみ…平面から立体への変化を考えながら、顔をテーマにしたレリーフを制作する。																										■			■	■						
		平面から立体へ（レリーフ）																															■	■				
		日本・世界の彫刻…異なる風土や文化の違いの中から生まれる表現の豊かさや独自の魅力を発見し、味わう。																																	■		■	

教科	科目	授業時数	対象学年
音楽	音楽	1.5	１年

１．学習の到達目標等

到達目標	簡単な読譜・楽典事項を理解しよう。／音楽の特徴をとらえて鑑賞しよう。／発声の基本を理解し、協力して合唱しよう。／アルト・リコーダーに慣れよう。／日本の音楽や民謡を知ろう。
目標を達成するための留意点	年度初めにノート配布およびアルト・リコーダーの注文をおこなう。
使用教科書	中学音楽　音楽のおくりもの１／中学器楽　音楽のおくりもの　（教育出版）
使用副教材	音楽ノート <NEW MUSIC NOTE>　（教育芸術社）
評価基準	◆＜各学期の評価＞実技１００点、ノート・提出物１００点、定期テスト１００点の３００点満点を３で割り、１００点満点の評点とする。授業の欠席・忘れ物・態度不良等は評点より減点する。教務の規定により１０段階、学年末は５段階評定に置き換える。　◆＜観点別評価＞各項目を次のとおりとする。Ⅰ…出席状況・態度、ノート・プリント等の提出率、実技テストの受験率、定期テストの得点率。Ⅱ…ノート等の内容、音楽行事への貢献。Ⅲ…実技試験の得点率、その他実技の技能。Ⅳ…鑑賞曲の感想内容、その他鑑賞活動。
学習内容	◆楽典（各教材の中で指導）：音名（日本・ドイツ）／階名／リズム打ち／ソルフェージュ　◆歌唱教材：校歌／エーデルワイス／こげよマイケル／青空へのぼろう／アニー・ローリー／夏の思い出／赤とんぼ／（合唱コンクール曲）／ソーラン節　◆鑑賞教材：「四季」より「春」／歌曲「魔王」／箏曲「六段の調」／日本の民謡／日本とアジアの音楽／交響詩「ブルタバ（モルダウ）」　◆器楽教材：リコーダーの知識／アルト・リコーダーの基本奏法／簡単なリコーダー曲／鍵盤の演奏　◆音とは何か／簡単な創作　※今年度は芸術鑑賞のための事前学習（ミュージカル）を実施

２．指導計画

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年	音楽	オリエンテーション アンケート・「校歌」練習		■			1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		「エーデルワイス」「Let's Sing」「ふるさと」…発声の基本・変声期		■																																		
		「音を聴く」…音マップ作成　「音ってなあに」…音の原理			■																																	
		「四季」より「春」			■																																	
		音名・階名・ドイツ音名・派生音			■	■																																
		「青空へのぼろう」…ソルフェージュ・楽典・音符・休符・表現						■																														
		「魔王」…ノート作曲者調べ・歌曲について・鑑賞・楽譜プリント							■	■																												
		＜器楽＞リコーダー…導入・知識～「アメージンググレイス」まで									■			■																								
		「夏の思い出」…歌唱・表現																	■																			
		＜器楽＞リコーダー…「ロング・ロング・アゴー」～「エーデルワイス」																	■	■	■																	
		「赤とんぼ」…日本の名曲・歌唱　発声練習　音程																				■																
		合唱コンクールに向けて…選曲・役割・パート分け・練習・仕上げ・本番演奏・振り返り																						■	■	■												
		※芸術鑑賞事前学習：ミュージカルについて（3学年共通）																							■													
		箏曲「六段の調」…楽器・楽曲について・鑑賞																										■			■							
		日本の民謡…導入・音階・ノート記入・民謡鑑賞																													■	■						
		音のスケッチ（簡単な創作）…太鼓のリズムを作って発表しよう																														■	■					
		「アニー・ローリー」…音階・和音（コードネーム）・転調・鍵盤																															■	■				
		オーケストラの楽器																																	■			
		交響詩「ブルタバ」…曲の背景・鑑賞																																	■			
		日本とアジアの音楽																																			■	